

小学4年生時の体格へ影響する出生体重と性差の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 眞鍋, 正博 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/3309

小学4年生時の体格へ影響する出生体重と性差の検討

○眞鍋正博 キッズメディカルまなべ

【背景】胎生期環境、出生体重や小児期の発育状況が望ましくない場合は、小児期及び成人期のメタボリックシンドローム、糖尿病、心臓循環器疾患、高血圧、精神発達異常の発症率が高いことが明らかとなってきた(DOHaD説)。

SGA (small for date) 児で身長伸びない場合には成長ホルモンを投与して対応している。しかし、出生体重が小学生の体格の発育に影響しているかの詳細な報告はない。

【対象】出生体重のアンケート回収率は89.6%

区分	A群	B群	C群	D群	E群	計
男児	1,570	6,894	9,809	2,990	315	21,578
女児	1,955	8,154	8,522	2,019	196	20,846

【方法】高松市の小学4年生全員を対象として、出生体重の調査は生活習慣病検診のアンケート調査にて行った。

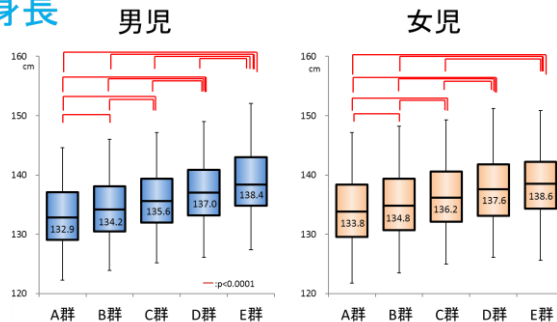
出生体重別に5群に区分(A群:2500g未満、B群:2500g以上3000g未満、C群:3000g以上3500g未満、D群:3500g以上4000g未満、E群:4000g以上)して、小学4年生(現在)における身長・体重・BMIとの関連性を、性差を含めて検討した。

各区分の検定はMann-Whitney U検定を用いた。

【結果】

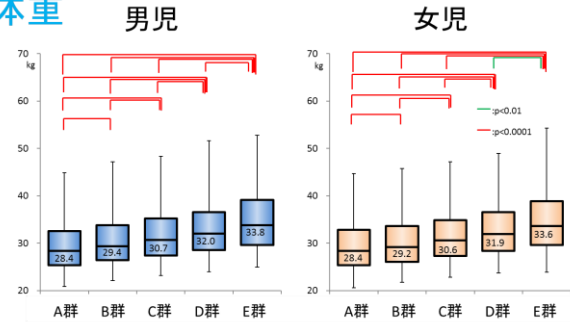
図はBox Plot(数字はmedian)で示す。

身長



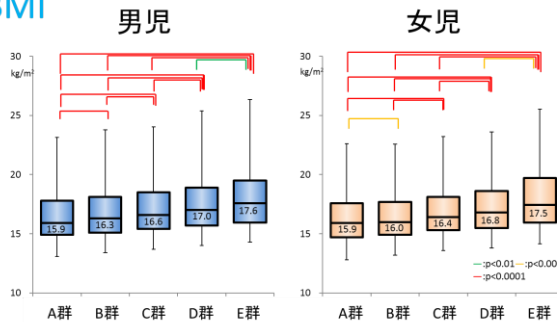
現身長は、出生体重が重くなると共に高くなり、E群を除き各群で女児が高かった。

体重



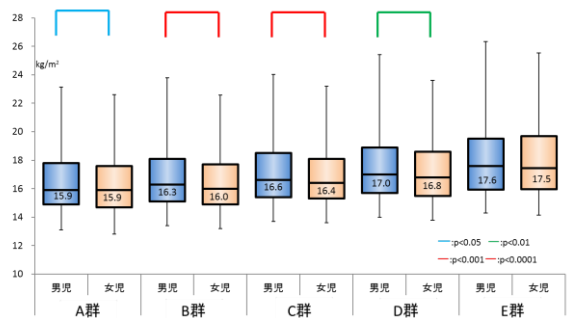
現体重は、出生体重が重くなると共に重くなるが、男女児間で差は無かった

BMI



現BMIは出生体重が重くなると共に大きくなり、E群を除き男児が大きかった。

BMI (男女児別の比較)



男女児別の検定ではE群を除き出生体重別に男児のBMI大きい。

①出生体重の増加に従い身長、体重、BMIが増える。

②E群以外の各群で身長は女児が大きく、BMIは男児が大きいという性差を認めた。

③E群では、それ以外の群とは身体発育に差がある可能性が示された。

【結論】出生体重が小学4年生時点で児の体格形成に影響していることが示された。またこの時点での体格には、E群を除き女児の身長は大きく、男児のBMIがより大きいという性差のあることが判明した。

眞鍋 正博:演題発表に関連、開示すべきCOI関係にある企業などはありません